

# 倉庫着工面積9%減

### 20年国交省土地白書

## 金融危機の波及は21年に

国土交通省が先ごろまとめた土地白書によると、平成二十年の倉庫着工面積が微減にとどまったことがわかった。五千平方メートル以上の大規模施設では、減少が目立ち始めている。

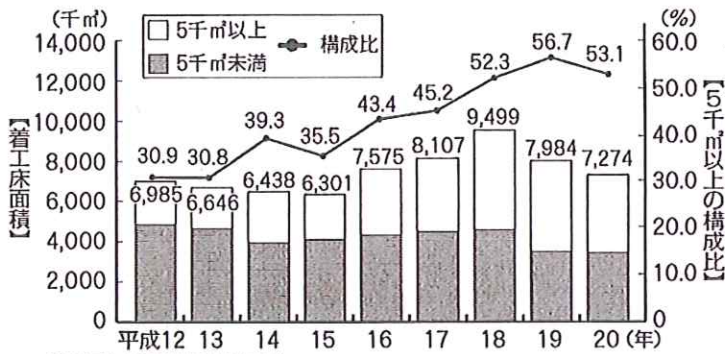
(小野 善隆)

平成二十年の倉庫着工で、同一・七〇減。十の流が止まり、ファン面積は七百二十七万四千八百平方メートルで、前年比八・九〇減。ピーク時の十八年と比べると三三・四〇落ち込んだ。大規模倉庫は次々と建設され、昨秋のリーマンショックで、金融機関からの資金

までの実績しか反映されておらず、イソソコ総研の河田栄司社長は「リーマンショックの影響は限定的」とみる。倉庫建設は、用地買収、許認可取得から完工まで二年はかかる長い事業。もともと二十年は着工数の減少が予想されていた。ただ、今回の統計では出た十六、十七年は土



### 倉庫の規模別着工面積



資料: 国土交通省「建築統計年報」  
注: 建築物の用途「倉庫」、構造形式「鉄骨鉄筋コンクリート造」「鉄筋コンクリート造」  
「鉄骨造」の床面積合計

地の値段が上がり過ぎ、取得を見合わせた事業者が多かった(河田社長) 段が下がり始めたため、

ためだ。

十九年以降は土地の値

再び土地を取得する事業者が増え、「二十一年の着工数は増えることが予想されていた(同)という。しかし、状況は一変。建設計画が次々と先送りされているため、どこまで減るのを見通せない状態だ。